大東だより帳

（17）

師走風景

師走――ふだんは悠然としておられる教師までが、走りだすほどみんなが忙しい月。

でも、このころの先生は生徒の進学や生活指導などで、常から忙しそうです。

来春に受験を控えた子供たちにとって、今は追い込みの真っ最中。はかどらぬ勉強に「時間よ、止まれ」と祈りたくなる季節です。

また学生には絶好のバイトの時期。馴れぬ接客に神経をつかい、力仕事に汗しながらお金を得る苦しさと喜びを体験している人もいます。

年賀状も書かねばなりません。何でも省略ばやりの昨今、印刷所は大忙しのようですが、一年一度の便りも多い事ゆえ、せめて一筆書きそえて。できれば手描きの水墨画とか木版刷り、イモ版だってナウいのができそう。水茎のあと美しい賀状は美人に思われるかも。

日ごろお世話になっている方に、感謝の心をこめて贈るのがお歳暮です。

百貨店では早くから内見会が催されていますが、人出は月始めから。

新聞広告、折り込み、ダイレクトメール等、歳暮大作戦はいよいよたけなわです。

北風が街を吹きぬけるころスーパー、商店街は歳末大売り出しとクリスマスセールで大にぎわいです。赤い幟（のぼり）、銀の星、色とりどりのモール、街灯には餅花も飾られて、ジングルベルのリズムは人々の購買心をあおります。

餅花は、柳の枝に丸い小さい餅をたくさん付けて部屋に飾り、稲や綿の豊作を願い、祖霊を祀った風習で現在も餅花を飾られる農家もあるとか。

また、以前は本市においても正月用野菜のクワイやレンコン等、多く生産されていましたが、農地の減少や人出不足、出荷時期の難しさもあって、今ではクワイが市西部で自家用程度に作られているとのこと。

しめ縄も、昔から市東部で盛んに作られていましたが、これも最近は氏神さまや自家用と聞きました。

こうした産業や風習が、時代の流れと共に消えてゆくのは残念で、何とか残せないものでしょうか。

やがて忘年会のシーズン。街に大トラ小トラが出没します。大掃除。迎春用買物。女たちも大忙し。でも…。

近年、女性の社会進出はめざましく、働く主婦が多くなりました。

それにカルチャーばやり。経済的余裕と時間の無さがなるべく手軽にと考えるのでしょうか。

お餅はとにかく、おせち料理にしても、パック物や店屋で整える家庭がふえ、手間ひまかけた手作りのおせち料理をつくる家庭は少なくなったようです。

衣類にしても同じです。

戦後四十年。平和な時代に生き、衣・食に恵まれ、ぜいたくに馴れた人たちの師走は、走るほどの忙しさではないのかも知れません。

日めくりもうすくなってきました。

この一年ダイヤのように光る日が何日あったかしら。

年齢と共に特に早く感じる月日の流れです。

年末のあわただしさの中で、来年こそは、日めくりの一枚の重さをひしと感じる日が多くありますように…と祈るこのごろです。

師走。それは終わりの月であり、始まりを約束する月でもあるのです。

文　酒井昭子

今はめずらしいしめなわづくり
（寺川５丁目の奥田正三さん宅で）